

地域高齢者医療と御影診療所の今後は

西山輝和議員

医療制度改革に伴い、全国約38万床の療養病床が、平成24年までに医療保険の15万床だけに再編成される。医療よりも介護サービスが必要な方は介護施設に変えられ、介護保険制度等との調整もなく、社会的混乱が心配されるが、御影診療所にどのような支援を考えているか。

住み慣れた家や地域で適切な医療・福祉サービスを受けられる体制が不可欠で、医療保障の高齢者ニーズをどう捉えているか。

今後、一層の高齢化は避けられない中、高齢期を支える御影地域の保健医療システムをどう考えているか。

高薄町長

御影診療所の院長は介護医療療養型施設から老

人保健施設等に転換したいと考えており、実現できるように協力していきたい。

高齢者のニーズについては、特別養護老人ホームの民間移譲による質の向上、グループホーム、小規模多機能型介護施設の設置、デイサービスの実施で、一定のサービス条件は整っており、今後も官民一体となってどう進めていくか考えていく。

御影診療所は、外来患者の診療及び緊急の入院等に対応ができる、地域に根ざした医療施設として、住



御影地域の医療施設として
欠かすことのできない御影診療所

民の安全・安心、健康保持のために運営できるように体制づくりが必要である。

原油、生産資材高騰に対する対応策は

口田邦男議員

原油、諸物価の高騰により、住民生活が深刻な影響を受けている。また、農業者は生産資材の高騰により、来年の営農は成り立たない。国、政府に訴えてきたが、町としても何らかの対応策が必要だと思つ。考えを伺つ。

高薄町長

原油高騰による支援策として、農業関係機関と十分に協議を進め、土壌分析診断にかかる経費を支援していきたい。飼料高騰の対策としては、自給飼料の増産で、デントコーンの増反や草地調整について、農業関係機関で支援を検討していきたい。

高薄町政 2期8年の思いと今後は

口田邦男議員

町長の2期8年の任期も終わりに近づいてきた。平成13年町長に就任以来、スタート時276億円の借金、行財政改革の推進等、8年の思いと、今後の町政への取り組みの決意を伺つ。

高薄町長

国の財政悪化、町財政の悪化の中、行財政改革推進計画、行財政健全化実行プラン、第一次、第二次緊急3年計画など計画変更、見直しをしながら今日までできた。ようやく、その成果が少し見えてきたところで、今後、実行に向けて更なる努力を積み重ねていかなければならない。

今後は、消費者の視点に立った生産体制の基盤づくり、高齢者の保健医療福祉対策、少子化による子育て環境づくり、教育環境の

充実をしなければならぬ。また、人口1万人を守りたいという思いで、滞在人口の増加、定住対策を進めており、1期目、2期目の反省点を踏まえて、再度、町政を担わせていただきたく、多くの町民の支援があればそれに向かつてまい進していきたい。

人口減少 歯止め策の促進

原紀夫議員

地方制度調査会が自治体の基礎的規模を人口1万人として答申したが、わが町は10年平均で年間80人ずつ減少している。この傾向が続けば数年後には1万人を割ることとなる。1万人割れまで時間はあまりないと考える。目指すべき対策と、高薄町政8年目までの人口減少歯止め策の進捗状況及び成果を伺つ。

人口減少の要因は雇用の場を求めての道央圏へ

の転出等種々考えられるが、全町を挙げて人口問題を考える組織を立ち上げ、現人口を維持する取り組みの必要性をどのように考えるか。

高薄町長

平成17年から清水町経済活性化戦略会議を設置し、経済を発展させることで人口や雇用が生まれるため協議を重ねている。成果が出るまでは時間がかかるが、バイオエタノール工場の設置、更に現在3社ほど折衝中で、更なる誘地を考えていく。移住の促進については、体験住宅を整備し、滞在者の意見を参考にしながら積極的に交流を深めたい。新たな宅地として、御影市街地の旧木工所跡地の分譲が進んでおり、土地開発公社から買い戻した土地は、公用地利用検討プロジェクトを置きし宅地として分譲できないか取り組みを進めたい。

人口の自然減についてはさまざま要因がある